

山岳部 創世記

リハビリテーション科
作業療法士 窪田博文
(山岳部 部長)

大学時代に山岳部に入り、当院に就職してからも1年ぐらいは相棒もいないので単独行をしていました。何かの飲み会で総務課の富樫さんが登山をしているのを知り、何度か一緒に山に登るようになりました。そのうちに山岳部を創ろうと話し出したのも酒の席だったような気がします。なぜか山が好きな人に酒も好きな人が多かったわけで。

そうこうしているうちに僕が部長にということになってしまいました。きっと酒の勢いでしょう。顧問は久保田院長、瀧本副院長、菊池元事務局長、武田元総婦長にお願いしたところ快く引き受けて下さりました。そして、有志の方々の協力を頂き、1995年12月25日に設立総会を開き、山岳部旗揚げとなったわけです。創部から2年近く経ちますが、厳冬期の天塩岳、見晴山・シアッシリ山・ピヤシリ山など近隣の山スキー、寒さに凍えた松山湿原での雪中キャンプ、クワウンナイ川の沢登りからトムラウシ山への縦走、全市連登山大会でのニセイカウシュッペ山、灼熱と強風のユニ石狩岳、釣りににはまった丸山、湯治の後の二日酔いで死んでいた石垣山、単独行の黒岩山、ニベソツ山などなど、その山行は四季を跨ぎ、バリエーションは無限大です。山行回数も40回を越えようとしています。

山岳部といえば硬いイメージですが、初心者から熟練者まで山へのルートは常に開かれているはずですので、気軽に入部してもらえればと思います。登山家G・H・マロリーの有名な言葉に「Because it is there (そこに山があるから)」というのがあります。「なぜ登るのか」という問いに答えた言葉です。僕としては、「すべての山の頂きには憩いがある」という言葉が好きで、自己回復のための山かもしれません。ひとりひとりが自分にあった山の登り方を見つけていける、そんな山岳部になればと思っています。



天塩岳の山頂にて